

International Biochemistry of Exercise Conference 2024 参加報告書

東京大学大学院 総合文化研究科 広域科学専攻 生命環境科学系
博士課程3年 小池 温子 (寺田研究室)

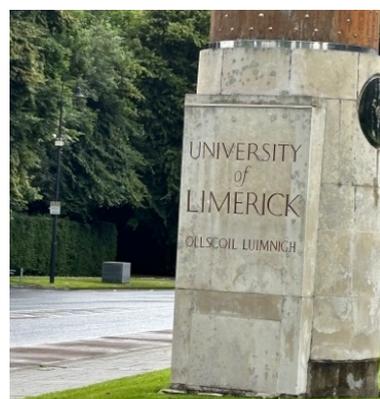
「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」の支援を受け、2024年7月9日から7月11日にかけてアイルランド・リムリック大学で行われた International Biochemistry of Exercise Conference (IBEC, 国際運動生化学) 2024 に参加しました。IBECは、運動生化学・分子生物学・生理学・栄養学等の分野における世界中の専門家が集う学術会議で、私は学会3日目に“Effects of the long-term intake of the Japanese diet on endurance training-induced metabolic adaptation in muscle and exercise performance”というタイトルでポスター発表を行いました。内容は、日本人が摂取する食事が運動選手にとって良いという通説が実際に正しいのかどうかを実験動物を用いて検証したものであり、発表時間中は6~7名の研究者から質問や意見をいただきました。熱心に聞いてもらえる時があれば、説明後すぐにその場を去る方がいたりと様々な反応があり、自分の研究をより魅力的に伝えるためのプレゼン力・英語力は未だ改善の余地があることを痛感しました。同時に、本研究の価値自体を見直す良いきっかけとなりました。

ポスター発表以外の時間はトークセッションに参加しました。上述した分野における名だたる研究者による発表は、難しく感じる内容があったり英語を聞き取ることができず、思うように理解ができない場面も度々ありました。それでもなんとかスライドを見て内容を把握することによって、数多くの貴重な知見に触れることができました。また、昨年まで留学をしていたハンガリースポーツ科学大学の研究室のメンバーも当学会に参加しており、メンバー間でお互いの近況報告や研究に対する意見交換を行いました。活動拠点が変わっても変わらず努力を続ける仲間の話聞き、励まされたと同時に、留学や学会を通じて世界中の研究者と繋がりを持ち続けられることは、非常に貴重で幸せなことであると改めて感じました。

さらに学会期間中には、学会運営の方々が懇親会やサッカー大会を開催してくださり、参加者同士が交流しやすいよう、欧州ならではの配慮がなされていました。そのような学会側の配慮とともに、この度の大学からの支援があったおかげで安心・安全な海外渡航および学会参加ができたと思っております。この学会で学んだこと・感じたことを今後の研究や進路選択につなげて参ります。



発表時の様子



学会会場のリムリック大学